

藤田哲也博士記念会20年間の活動紹介

金 氏 顯*

1. はじめに

2020年はミスタートルネードとして著名な藤田哲也博士（シカゴ大学特別貢献名誉教授；第1図）の生誕100年にあたります。日本が誇る偉大なる気象学者のありし日々を偲んで、藤田哲也博士記念会と、その前身の藤田記念館建設準備委員会の20年間にわたる活動状況を皆様にご紹介します。

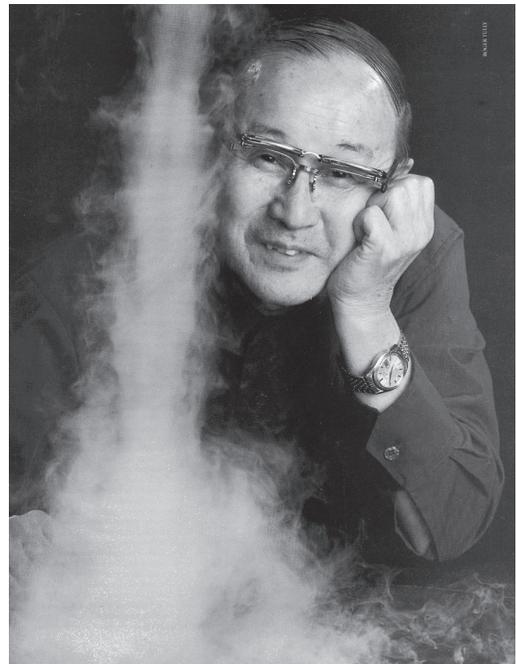
まず、藤田博士の略歴を以下に掲げます。

- 1920 (大正9) 年10月23日 小倉南区中曽根生れ
- 1939 (昭和14) 年3月 小倉中学校 (現小倉高校) 卒業
- 1943 (昭和18) 年9月 明治専門学校 (現九州工業大学) 機械工学科卒業
- 1945 (昭和20) 年8月 長崎・広島原爆被害調査
- 1953 (昭和28) 年8月 Byers 博士招聘によりシカゴ大学客員研究員として渡米
- 1965 (昭和40) 年10月 シカゴ大学気象学教授に就任
- 1971 (昭和46) 年2月 竜巻強度の世界基準となる F-Scale (藤田スケール) 考案
- 1975 (昭和50) 年6月 イースタン航空66便墜落事故の原因調査から「ダウンバースト」を発見
- 1989 (平成元) 年 シカゴ大学チャールズ・メリアム特別貢献教授の称号授与
- 1990 (平成2) 年5月 日本気象学会藤原賞受賞
- 1991 (平成3) 年4月 勲二等瑞宝章受章
- 1998 (平成10) 年11月19日 永眠 (享年78歳)

2. 「藤田記念館建設準備委員会」の発足と活動

逝去の翌1999年5月に、すみ子夫人が博士の遺骨を持ち帰り、生誕の地曾根の菩提寺 (円光寺) で法要が営まれ、藤田家の墓に納骨。集まった関係者 (ご遺族、教え子、郷土の人々など) は、シカゴ大学強風研究室から遺品を持ち帰り、顕彰するための記念館を造ろうと「藤田記念館建設準備委員会」を発足させました。九州工業大学の迎 静雄学長、小倉高校の沖 総一郎校長、株式会社安川電機の菊地 功社長が共同代表に就任し、その活動を開始しました。

まず、母校である小倉高校や九州工業大学の同窓生



第1図 藤田哲也博士と模擬竜巻。

* Akira KANEUJI, 藤田哲也博士記念会会長。
kaneuji@amber.plala.or.jp

© 2020 日本気象学会



第2図 九州工業大学の倉庫に保管された整理後の遺品。



第3図 九州工業大学百周年中村記念館の「藤田ギャラリー」。

を中心に遺品運搬や活動に必要な経費の寄付を募集したところ、1000万円を超える寄付金が集まりました。これを活用して、2000年3月、シカゴから大型コンテナ2.5個分の遺品を北九州市の門司港に輸送、九州工業大学内の倉庫に保管し、長年かけて整理（第2図）したのち、以後の展示に活用しました。

主な展示や顕彰活動は次の通りです。

- ①2001年7月～11月、ジャパンエキスポ「北九州博覧祭2001」にパネルと竜巻発生装置を出展。入場者42万人（博覧祭全体の入場者数は215万人）。
- ②2001年7月、藤田博士自伝「ある気象学者の一生」の複製版を発行。第1刷1000冊を印刷し、上記博覧祭で完売。2004年に第2刷発行（在庫あり（税込700円））。
- ③北九州新空港開港（2006年3月）の1年前と2年前に開催された北九州空港祭にパネルと竜巻発生装置を展示。

記念館建設に関しては、北九州新空港に隣接して藤田博士の貴重な資料を展示する記念館を設置し、併せ

て新空港の愛称を「ドクターフジタ・メモリアルエアポート」とすれば空港を利用する日本人、外国人にその名が知られ、町おこしにも繋がるとの夢を持ちましたが、バブル崩壊により残念ながら潰えてしまいました。

現在、これら遺品は、論文等の書籍やデータ、また受賞メダルやカメラ等残すべきものは九州工業大学に、膨大なスライドやフィルムは日本風工学会に、また一部は2022年に開館予定の市立新科学館に、それぞれ寄贈する予定です。

3. 「藤田哲也博士記念会」への改称とこれまでの活動

九州工業大学創立100周年記念事業において、卒業生の中村 孝氏の寄付により「百周年中村記念館」が2013年3月にオープンし、その一角に藤田哲也博士を顕彰する「藤田ギャラリー」が設けられました。ここでは、シカゴ大学から移送した博士の机、椅子、タイプライター、カメラ、受賞したメダルなどが展示されています（第3図）。

当初の「藤田記念館」構想からは小規模にはなりませんが、これを機会に会の名称を「藤田哲也博士記念会」と改称し、以降、これまでに次のような活動を行ってきています。

- ①2014年9月から10月にかけて、北九州産業技術保存継承センター（通称、北九州イノベーションギャラリー、KIGS）にて、特別企画展「山川健次郎と藤田哲也～工学教育の先駆者と竜巻研究の開拓者～」が開催され、展示パネル作成、展示物提供に全面的に協力。講演やパネル討論に記念会会員も登壇。
- ②2018年3月に新装開館した小倉南図書館に博士の胸

像を設置しようと、博士の地元の人々が組織した「藤田哲也博士を顕彰する会」が行った寄付募集に全面的に協力しました。現在、図書館に設けられた郷土コーナーに、紹介パネルや代表的な論文などと共に藤田博士の立派な胸像が展示され、図書館を利用する市民に広く親しまれています。

- ③2018年11月19日、藤田博士没後20年にあたり、博士が小倉中学校卒業直後に平尾台で友人と発見した鍾乳洞“藤戸洞”を探索するイベントを開催。会員など8名で岩壁を約20m登って洞内に入り、見事な鍾乳石に感動しました。
- ④2020年は米国気象学会100周年であり、藤田博士の生誕100周年も記念して藤田博士の伝記を制作することになり、その執筆者である Jennifer Henderson 博士が2019年10月に来日されました。その約2週間の全行程を藤田哲也博士記念会がアレンジしました。博士所縁の曾根の生家、お墓、平尾台、曾根干潟、耶馬溪、小倉高校、九州工業大学、長崎原爆資料館などの訪問、またご遺族、門弟諸氏との面談、更に北九州市長への表敬訪問を企画しました。気象庁の方にアレンジをお願いし、気象庁本庁にも訪問することができました。
- ⑤2019年10月、日本気象学会2019年度秋季大会が福岡で開催されるのを機会に、専門分科会「藤田哲也生誕100年一わが国における竜巻研究一」(大会2日目、10月29日午前)を記念会会員ほか世話人となって開催しました。分科会では、前記の Henderson 博士にも藤田博士伝記制作の動機などについて講演いただき、また、記念会会員の橋本昭雄氏から記念会の活動について紹介したほか、総勢9名による講演を企画しました。約200人の参加者と活発な討論がなされ盛況でした。
- ⑥2020年、生誕100周年記念行事を10月に大々的に開

催する計画を立てましたが、折からの新型コロナウイルス感染症の流行により、米国からも国内からも参加者を見込めず、5月にやむなく中止を決定しました。代わりに、10月24日に前記の KIGS にて小規模の記念講演会(2時間)を開催し、藤田博士の日本での33年間と米国での45年間の紹介のあと、米国 PBS 放送局作成「Mr. Tornado」の放映、そして元福岡管区気象台長横山辰夫氏による「藤田哲也博士と気象庁〜博士が気象台に残した足跡と日本の気象業務への貢献」と題する講演を開催し、コロナ対策制限の定員満席の盛況で好評でした。

4. 「藤田哲也博士記念会」の今後の活動方針

生誕100周年を迎え、当会は今後も活発に活動していく所存です。当面、以下のような活動を予定しています。

- ①2020年度内に生誕100周年記念各種イベントを開催。
- ②シカゴ大学から持ち帰った藤田博士の全遺品の寄贈手続きを2022年春までに完了。
- ③米国気象学会発行予定の藤田博士伝記の原稿検証と和訳。
- ④2022年3月完成予定の北九州市立新科学館(名称未定)への藤田博士コーナーや大型竜巻発生装置の設置にあたり、北九州市に情報提供などで支援を実施。
- ⑤2022年10月に新科学館完成記念を兼ねて大々的に藤田博士記念特別講演と祝賀会を米国気象学会関係者とも連携して、生誕100周年記念の代替として開催。
- ⑥上記のほか、次世代層を含む一般市民に藤田博士の偉業を周知する活動などを随時企画。

まだ未完成ではありますが、ウェブサイト <http://fujitascale.sakura.ne.jp/>(2020.10.1閲覧)も構築しています。これからも藤田哲也博士記念会へのご支援をよろしくお願いいたします。